

【 専門分野 精神看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
精神看護学概論	1	15時間（8回）	1年次・前期	中山 奈緒美	
学習目標	1. ライフサイクル各期における発達課題との心の危機的状況について理解できる 2. 心の健康がいかに重要であるか理解できる				
D P と の 関 連	■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 <input type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1回	精神看護学で何を学ぶのか、なぜそれを学ぶのか	講義	7回	DVD「脳とこころ」	DVD学習
2回	心の構造と働き	講義	8回	まとめ 終講試験	試験
3回	精神力動論	講義			
4回	暮らしの場とこころの健康づくりのあり方	講義			
5回	現代社会とこころの健康づくりのあり方	講義			
6回	ライフサイクル各時期におけるこころの健康と精神看護の概要	講義			
評価方法	筆記試験	100点	教科書	系統看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健 メジカルフレンド社	

【 専門分野 精神看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
精神保健福祉概論	1	30 時間 (15 回)	2 年次・前期	柱谷 久美子 八田 篤郎 富川 明子	
学習目標	1. 精神保健の入院医療から地域生活への移行を理解し、精神の健康に関する普及啓発活動について理解できる				
D P と の 関 連	<p>■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。</p> <p><input type="checkbox"/>2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。</p> <p><input type="checkbox"/>3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。</p> <p>■4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。</p> <p>■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。</p> <p>■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。</p> <p><input type="checkbox"/>7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。</p>				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. 人々の暮らしと 精神保健福祉	講義	8 回 (八田)	6. 地域移行支援の展開 1) 精神障害者の地域 生活支援の現状	講義 講義 講義
2 回	2. 精神保健福祉の歴史		9 回	2) 精神障害者のニーズ に応じた地域支援 の展開	
3 回	3. 精神保健福祉に関する 法律と施策	講義 講義	10 回 (富川)	3) 地域生活の中断を 防ぐための支援の 展開	
4 回	4. 精神保健福祉活動の 展開に必要な知識と 技術	講義 講義 講義	11 回	4) 地域における早 期支援の重要性と 支援の展開	
5 回 (富川)				7. 特定の状況に対する 精神保健福祉	講義
6 回 (八田)	1) 一次予防 2) 二次予防 3) 三次予防 4) 精神科リハビリ テーションと リカバリー		12 回	8. 精神科以外での 精神療法	講義 講義
7 回 (富川)	5. 地域移行支援・ 地域生活支援の基礎 1) 重要性和課題 2) 基礎知識	講義 講義	13 回 14 回 15 回	1) リエゾン精神看護 2) 感情労働 まとめ 終講試験	講義 講義 講義・試験
評価 方法	筆記試験 100 点		教科書	系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 (医学書院)	

【 専門分野 精神看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
精神疾病論	1	30 時間 (15 回)	2 年次・前期	礒川 亮	
学習目標	1. 精神障害がある疾病の特徴と、治療、検査を含め生物学的側面が理解できる				
D P と の 関 連	<p>■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。</p> <p>□2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。</p> <p>□3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。</p> <p>■4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。</p> <p>■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。</p> <p>□6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。</p> <p>□7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。</p>				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	症候学総論 (疾患分類) 精神障害と精神病	講義	8 回	中毒性精神病 (ドラッグ一般、アルコール 精神病)	講義
2 回	思考異常	講義	9 回	神経症 (不安障害) 解離障害、レム睡眠行動異常	講義
3 回	感情異常	講義			
4 回	症候学総論 意欲・知覚・意識・記憶	講義	10 回	人格障害、転換性ヒステリー 急性ストレス障害	講義
5 回	失語・失行・失認	講義	11 回	症候性精神病 説得と納得	講義
6 回	特殊な意識障害 統合失調症	講義	12 回	てんかん発作と痙攣 広範性発達障害	講義
7 回	うつ病 老年期精神病	講義	13 回	小児精神医学	講義
			14 回	治療学総論、精神療法総論	講義
			15 回	まとめ 終講試験	試験
評価方法	筆記試験 100 点		教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 (医学書院)	

【 専門分野 精神看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
精神看護学援助論 I	1	30 時間 (15 回) ①12 時間 (6 回) ②16 時間 (8 回)	2 年次・後期	①大松 順子 ②吉川 東男	
学習目標	1. 病期に応じた症状・状態を経験している患者の基本的看護を理解し、アセスメントと援助ができる知識を習得する				
D P と の 関 連	<input type="checkbox"/> 1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 <input checked="" type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 大松	精神保健福祉法に沿って入院形態別、診察～入院に至るまで	講義	7 回 吉川	精神科における医療事故 リスクマネジメント	講義
2 回 大松	入院形態に沿って処遇の基準	講義	8 回 吉川	急性期の患者の看護①	講義
3 回 大松	精神看護の定義 精神科看護と役割	講義	9 回 吉川	急性期の患者の看護②	講義
4 回 大松	入院のメリットとデメリット 精神疾患の患者のもつ特徴	講義	10 回 吉川	慢性期の患者の看護①	講義
5 回 大松	精神科における安全を守ると いうこと	講義	11 回 吉川	慢性期の患者の看護②	講義
6 回 大松	治療的環境	講義	12 回 吉川	回復期の患者の看護	講義
		講義	13 回 吉川	MSE について① 精神症状と精神機能の理解	講義・試験
		講義	14 回 吉川	MSE について②	
		講義	15 回	まとめ 終講試験	
評価方法	筆記試験 100 点		教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 (医学書院)	

【 専門分野 精神看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
精神看護学援助論Ⅱ	1	15時間（8回）	2年次・後期	中山 奈緒美	
学習目標	1. 事例を用いて看護過程が展開できる ・ICFモデルを活用しアセスメントできる ・MSEを活用しアセスメントできる 2. 治療的コミュニケーションを図るために自己理解の重要性が理解できる				
D P と の 関 連	<input type="checkbox"/> 1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 <input type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1回	治療的コミュニケーション プロセスレコード	講義 演習			
2回	オレムセルフケア理論を用いた看護①	講義 演習			
3回	オレムセルフケア理論を用いた看護②	講義 演習			
4回	ストレングスモデルを用いた看護	講義 演習			
5回	事例（統合失調症）を用いて ケア計画①	演習			
6回	事例を用いて②	演習			
7回	事例を用いて③ 事例を用いて④	演習			
8回	終講試験	試験			
評価 方法	筆記試験 100点		教科書	精神障害をもつ人の看護（メジカルフレンド社）	